

▼トロピシム筋注用 [注]

【重要度】★★ 【一般製剤名】スペクチノマイシン塩酸塩水和物 spectinomycin hydrochloride hydrate 【分類】抗生物質 [アミノグリコシド系]

【単位】▼2g/V [懸濁用液 3.2mL 付]

【常用量】1回 2g [最大 4g] ■1回投与後 3～5 日間は経過を観察し効果判定

【用法】臀部に筋注 [20G ニードル使用]

【透析患者への投与方法】1回投与のため減量の必要なし (12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】1回投与のため減量の必要なし (12)

【その他の報告】腎障害患者で半減期の延長が認められる (Kusumi R, et al: Chemotherapy 27: 95-8, 1981) ため、繰り返し投与時には注意 (5)

【特徴】アミノサイクリトール系薬剤で、ペニシリン G 耐性の淋菌に対しても抗菌作用を示す淋疾治療剤。細菌細胞内のリボソーム 30S Subunit に作用し蛋白合成を阻害する。

【主な副作用・毒性】ショック、注射部位の疼痛・発赤・硬結、発疹、蕁麻疹、しびれ感、めまい、悪心、嘔吐、腎機能低下、乏尿、倦怠感など

【安全性に関する情報】

【tmax】1hr [im] (1) Cmax は 2g 筋注後 91.4 μg/mL (1)

【代謝】代謝されない (1)

【排泄】尿中回収率 45.5% [im, 6hr まで] (1) 尿中未変化体排泄率 35～90% (12)

【t1/2】健常人 1.5～1.7hr, 腎障害患者 4.7～29.3hr (Kusumi R, et al: Chemotherapy 27: 95-8, 1981) 1.6hr, ESRD で 16～29hr (12)

【蛋白結合率】0% (1) 5～20% (12)

【Vd】0.25L/kg (12)

【MW】495.35

【透析性】資料なし (1)

【O/W 係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】20151107

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。